

園内研修  
実践例

# ワークシートで場面を共有して 「遊びを見通す力、をつける

東京都 品川区立第一日野すこやか園 (幼保一体施設)

第一日野すこやか園は、第一日野幼稚園と西五反田第二保育園が併設された幼保一体施設。今回は、幼稚園と保育所の保育者が共に「遊びの見通し」を考える、ワークシートを使った研修を行いました。使用したワークシートは、P.10で紹介した「ヤゴのえさはオタマジャクシ!？」です。「学びの芽生え」を促すヒントにしてください。

準備したもの ・ワークシート (p.10に掲載)  
・付箋紙 (10人程度で研修する場合、付箋紙に考えを記入すれば、意見を分類してまとめるのが容易になります)

## 研修の流れ

### 話し合いが活性化しやすい環境づくり

#### 1. 机の配置を工夫

全員の顔を見ながら話し合えるように、机を三角形にレイアウトしました。



#### 2. 異なる意見が出やすいメンバー構成

多様な意見が出るように、幼稚園から3名、保育所から2名が参加し、ベテランや若手など経験年数の異なるメンバー構成としました。ファシリテーターは、保育園の副園長が担当しました。

### ①ねらいを説明する (5分間)

ファシリテーターがワークシートの概要やねらいを説明します。



#### ▶ファシリテーターの役割

- ・みんなで同じ場面を見ながら、「学びの芽生え」を探っていくために、ワークシートを使用することを説明する
- ・子どもの発見や気づきがどのように展開してほしいかを見通し、そのための援助の方法を考えるという研修のねらいを説明する



### ②個々の考えをワークシートに記入する (10~15分間)

それぞれの保育者がワークシートに記入します。



#### ▶ファシリテーターの役割

- ・思ったことや感じたことは何でも書いてよいことを伝える
- ・「こんなふう考える子どももいるかも」など、いろいろな子どもの立場から考えることをすすめる



### ③話し合いで考えを深める (20~30分間)

ワークシートの場面の流れに沿い、保育者が記入内容を発表し合います。話し合いは「子どもの意見が食い違ったときにどう援助するか」「そもそも生き物の飼育を通して何に気づき、考えてほしいか」といった普遍的なテーマに発展していきました。



#### ▶ファシリテーターの投げかけ

他の保育者の意見との比較「○○さんから、こんな考えが出ました。似ている考え、または異なる考えはありますか」

自分の保育への置き換え「実際に似た場面を経験したことがありますか」

「学びの芽生え」への考察「生き物の飼育によって子どもが得られる学びには、どのようなことがありますか」

飼育上の難点「生き物の飼育で困ることは何でしょうか」

援助の広げ方「一人ひとりの子どもの気持ちを受け止めるには、どのような援助が必要でしょうか」



### ④まとめ・振り返り

最後に「自分ならどのような援助をするか」を発表し合い、締めくくられました。



#### ▶ファシリテーターの言葉

- ・保育に正解がひとつだけということはないので、それぞれの考えを大切にほしい
- ・保育者同士、お互いの考え方の共通点や相違点を確認していくことで、保育の質が高まる
- ・生き物を飼うことについては、園全体として方針を決める必要があるため、後日、改めて飼育環境などについて話し合いたい(小出せい子先生/保育園副園長)

#### 研修を終えて

◎他の先生の意見を聞いて「そんな考え方もあるんだ」と視野が広がったのが最大の学びでした。このような形式の研修を続けることで、子どもへの全般的な理解が深まると思いましたが、個々の保育場面における具体的な援助の幅が広がります。(島倉千絵先生/5歳児担任)

◎これまで、保育者がひとつの場面についてひざを突き合わせて話す機会はあまりありませんでした。他の先生がたの考えを知るとともに、自分の保育を見つめ直す機会にもなりました。ワークシートの記入を通して考えが整理され、気づきもたくさんありました。(小滝美行先生/3歳児担任)

## 園内研修ではこんな意見がでました

### STEP 1 子どもの気づき・育ち

#### 子どもの発見・気づき

- ◎ヤゴもおなかがよくし、生きるためには食べ物が必要なんだな。
- ◎ヤゴが何を食べるか、図鑑で調べれば分かるかもしれない。

#### 子どもの気持ち

- ◎ヤゴが大きくなってトンボになるのを見たい。
- ◎ヤゴにオタマジャクシを食べさせてみたい。
- ◎僕が捕まえたオタマジャクシが食べられるのはいやだ。
- ◎オタマジャクシもかわいそう。ほかに食べるものはないのかな。

### STEP 2 学びの芽生えを促すための見通し (保育者の願い)

- ◎自分の思いを友だちに伝えようと共に、友だちの思いにも耳を傾けてほしい。
- ◎話し合いを通して命の大切さを深く考えてほしい。
- ◎ヤゴとオタマジャクシの両方の立場から考えてほしい。

### STEP 3 具体的な援助

- ◎みんなが納得する結論が出るまで話し合いをサポートする。
- ◎子どもが納得したうえで、ヤゴを池に返してトンボになる様子と一緒に見守る。
- ◎ヤゴを池に逃がすとしたら、捕まえて図鑑で調べた子どもの気持ちを受け止めることも忘れない。
- ◎これからは季節を踏まえ、部屋にいろいろな図鑑を置いておく。

### 園での研修について

#### 幼保の保育者同士の相互理解が一番の収穫

幼保一体施設である当園では幼稚園と保育所の保育者がお互いのよさを取り入れていくことを目指しています。しかし、今年度6月に開園したため、保育観や子どもへの接し方について深く話し合う時間があまりとれませんでした。今回の研修では、それぞれの保育者が「学びの芽生え」について理解すると共に、園全体として大切にしたいことをみんなで考え、共有することができました。共通理解の深まりによって、個々の保育者がこれまで以上に自信をもって子どもに接することができるようになると思います。今後もさまざまな保育の場面でテーマにして研修を続けたいと考えています。



東京都 品川区立  
第一日野すこやか園  
園長 丸山 智子先生

### 東京都 品川区立第一日野すこやか園 (第一日野幼稚園・西五反田第二保育園)

◎2010年に幼保一体施設となり、幼稚園と保育所が連携し、保育内容の融合を図っている。小学校へのスムーズな接続のため、同じ敷地にある品川区立第一日野小学校と協力して接続カリキュラムを構築している。

園長 丸山 智子先生 (第一日野幼稚園)、大島 正美先生 (西五反田第二保育園)

所在地 〒141-0031 東京都品川区西五反田6丁目5-6

園児数 60名 (第一日野幼稚園・4~5歳児)、86名 (西五反田第二保育園・0~5歳児)

